

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	幼児と音楽表現						授業形態		講義	
科目コード	750191	単位数	1単位	配当学年	2	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	早川 純子								ICT活 用	
授業概要	この授業では、領域「表現」のねらいおよび内容を踏まえ、幼児の表現の姿やその発達を理解するとともに、多様な音楽表現の基礎的な知識と技能を習得する。特に、楽典やコードの学習を通して、音楽的な基盤を築くことを重視する。聴く・歌う・動く・奏でる・つくるといった様々な表現活動を通して、表現の楽しさや協働して表現することの喜びを実感し、豊かな表現へとつなげる保育技術の習得を目指す。そのために、4領域との関連や小学校音楽科教育への接続を考慮し、季節や行事、伝承遊び等の文化的背景に親しみながら、実際の保育を検討し体験する機会を提供する。各活動では、ICTを活用した具体的事例を提示し、理解を深めることを目指す。									
関連する科目	事前に「ピアノ実技I（基礎）」および履修し、ピアノ実技の基礎力を身につけていることが望ましい。本授業と並行して「ピアノ実技II（応用）」を、履修後に「保育内容指導法（音楽表現）」「ピアノ実技III（実践）」および「器楽合奏・音楽療法演習」を履修し、応用力を高め実践的力量を身につけることが望ましい。									
授業の進め方 と方法	毎回の授業において、理論と実技を行う。1回の授業の構成は下記の通り。 授業の前半で、発達段階や保育技術の理論を学び、後半では音楽の基礎的な技能を身につけるため実践的に学習する。									
授業計画 【第1回】	第1回：幼児の感性と表現 領域「表現」のねらいと内容：幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因について理解する。 譜表と音名・クレ読み・新曲視唱									
授業計画 【第2回】	第2回：様々な表現における基礎的な内容① 聴く活動：身の回りの様々な音の存在に気づいて響きを楽しむ感性を育て、相手の言葉に耳を傾け他者の気持ちを思いやる心を育む表現遊びの方法を学ぶ。 音符と休符・クレ読み・新曲視唱									
授業計画 【第3回】	第3回：様々な表現における基礎的な内容② 歌う活動：歌うことの楽しさ、協働して表現することの喜びを実感できる表現遊びの方法を学ぶ。 拍子とりリズム・クレ読み・新曲視唱									
授業計画 【第4回】	第4回：様々な表現における基礎的な内容③ 動く活動：目に見えない音楽を、歩く・走る・転がる・揺れる・跳ぶ等の動きで可視化し、表現力や集中力を身に付ける表現遊びの方法を学ぶ。 音程・クレ読み・新曲視唱									
授業計画 【第5回】	第5回：様々な表現における基礎的な内容④ 奏でる活動：ふる・たたく・おす・ふく・はじく・こする等の奏法を理解し、様々な響きの聴き比べを通して、音色・強弱・長短などの音楽要素への気づきを促す表現遊びの方法を学ぶ。 音階と調・クレ読み・新曲視唱									
授業計画 【第6回】	第6回：様々な表現における基礎的な内容⑤ つくる活動：手づくり楽器を製作して、自分だけの音づくりや即興演奏、リズム遊びの方法を学ぶ。 省略記号・クレ読み・新曲視唱									
授業計画 【第7回】	第7回：様々な表現における基礎的な内容⑥ 模擬保育①（聴く活動・歌う活動・動く活動）：身体の諸感覚を通した表現活動に取り組み、表現することの楽しさや協働性の喜び、そしてその重要性を実感する。 楽典復習									
授業計画 【第8回】	第8回：様々な表現における基礎的な内容⑦ 模擬保育②（奏でる活動・つくる活動）及び振り返りとまとめ：身近な素材を用いた創作的活動に取り組み、その面白さや可能性を実感する。 クレ読み									
授業計画 【第9回】										
授業計画 【第10回】										

授業計画 【第11回】	
授業計画 【第12回】	
授業計画 【第13回】	
授業計画 【第14回】	
授業計画 【第15回】	
授業の到達目標	1. 領域「表現」のねらい及び内容を理解し、その位置づけについて説明できる。 2. 聴く・歌う・動く・奏でる・つくる等の様々な表現遊びや環境構成についての知識・技能、表現力を身に付ける。 3. 表現することの楽しさ、協働して表現することの喜びを幼児と共有することができる。 4. 幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現を受け止め、共感することができる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	発達段階については、他の科目で学んだ内容も含めて十分に理解しておくこと。(30分程度)
授業時間外学習【復習】	楽典の復習は必ず行い、確実に習得すること。(1時間程度)
課題に対する フィードバック	テストや課題は、評価後に返却および解説をします。
評価方法・基準	授業態度や授業時間外の学修状況、及び模擬保育と定期試験から総合的に判断する。 ① 受講態度及び学修状況：50% ② 模擬保育：20% ③ 定期試験：30%
テキスト	櫻井琴音・上谷裕子 編著『第2版 アクティブラーニングを取り入れた子どもの発達と音楽表現』(学文社) 大石みつ・下村幸・鳥居美智子 共編『楽しい歌とあそび』(音楽之友社)(※2年「ピアノ実技II(応用)」でも使用) 全国大学音楽教育学会 九州地区学会 編『ピアノテキスト』(カワイ出版)(※1年「音楽」および「ピアノ実技I(基礎)」でも使用)
参考書	『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館) 『保育所保育指針』(フレーベル館) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(内閣府・文部科学省・厚生労働省)
備考	